

## あらすじ

主人公は、契約社員の渡辺直美。かつては、この会社の正社員でしたが、契約社員として職場復帰しています。渡辺は、一歩引いた視点で、自分の気づいたことを職場の一人一人に、それとなく伝えていきます。

この職場は、皆それぞれが頑張っていますが、忙しさのあまり、相手の立場や状況への配慮、想像力が欠けてしまっています。その結果、相互の思惑の些細な食い違いをうみ、職場がバラバラになっていき、大事なプレゼンも失敗してしまいます。

失敗をきっかけに自分の職場の状況に気づいた井上課長は、渡辺の助言をヒントに一人一人に働きかけます。一人一人が自分の課題に気づいたとき、職場は次第に一つにまとまっていきます。

## 構成

### 挨拶もままならない、バラバラな職場

渡辺直美が課長に「おはようございます」と挨拶しても、返事が返ってこない。他のメンバーも同様に、挨拶を交わすということもない。

### 伝えたいきもち 伝わっていますか？

●井上課長が中村の提案書に対して：何がいけないのか分からない……

部下(中村)の提案に対して、「この提案書、何か違うんだよね」としか言わない井上課長。具体的に何が間違っているのか指示も出さずに自分が代わりにやってしまう。

●清水が新入社員の小山に頼んでいた資料：仕事を頼んだつもりだったのに……

「お願いしていたリスト、できたかな？ 夕方の会議で使うんだよ。間に合う？」と清水。「清水さん、手のあいた時にやればいって言いませんでしたっけ？」と、新入社員の小山。

### 相手のきもち 想像していますか？

●新入社員 小山のメール：ひと言あれば……

忙しい井上課長のもとに、「送りました」という一言もなしにメールを送りつける新入社員の小山。

●母が急に倒れ、遅れて入社した中村に対して：ちょっとした思いやりを……

「そりゃ心配だよ、今度のプレゼンは今年度の売上をかけた勝負だからね。大丈夫かい？」と、全く心配している様子も無い井上課長に、戸惑う中村。

●プレゼン前日：契約社員だからって……

皆がプレゼンの準備で忙しくしているので、手伝おうとする渡辺だが、「契約社員なのに我々と同じ

仕事をしていたら割に合わないだろ」と言われ、帰される。

●プレゼン当日：ついに職場は空中分解！

職場がバラバラで準備不足のため失敗してしまう。「課長は何もしてないじゃないですか！」と溜まっていた想いを中村からぶつけられ、ひとり落ち込む井上。

### 私が私らしくあるために職場でできることは？

●自分の言葉で伝える【アサーティブな対応】

井上課長は清水に声をかける。「言っていないだよ。清水君の考えたことを、清水君の想いを」と。それを受けて、自分の想いを話し出す清水、傾聴する井上。

●相手の立場を想像する

渡辺は、小山が井上課長に送ったメールを例にあげ、「相手の立場を想像して仕事ができれば、相手にも自分にもいい仕事になるのでは？」と伝える。

●自分らしさ相手らしさを認める

井上課長への不信感を募らせ始めた中村に対して、渡辺は「こうあるべきだって枠にはめてしまうと、自分にも相手にも些細なことで許せなくなる。そして本当の姿を見失ってしまう」と説く。

### やがて、まとまり始めた職場

一人一人が自分の課題に気づき、職場がまとまり始めた。

「おはようございます！」気持ち良い朝のあいさつが交わされている。